

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 同出典は 2026 年立命館大学・全学統一日程 (2/1 実施) でも出題された。また、同志社大学で頻出の空欄補充問題が、2026 年は 2/6 の学部個別日程 (文・経済) でしか出題されなかった。 〈古文〉 問題文の分量や設問の形式に大きな変化はない。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 吉岡洋 『AI を美学する』 ○行数 : 115 行	人工知能に対するドレイファスの指摘について、再考の意義があると論じた文章。(一)の内容説明問題の選択肢 4 は「大規模言語モデルに基づく人工知能を批判」が不適当。(二)の内容説明問題は、傍線部直後の「テクノロジーの本質」の内容を押さえる。(四)の内容説明問題の選択肢 4 は「コンピュータの実存的な苦悩を感じとる」が不適当。 ※ (昨年度) 評論、115 行、7 問 (8)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (江戸・説話) 作者未詳 『雑々集』 ○行数 : 31 行	運悪く亡くなった人の魂が、別の人の亡骸に入っ て蘇ったことで混乱が生じた話。(一)の語句問題は標準。(三)の内容説明問題は、傍線部以前にある「よみ人」の発話内容と、傍線部直後で「使ひ」が実際に「よしかず」の妻子と会話していることを踏まえる。(七)の記述問題は「いづれ」「かくしつつ」が指し示す内容を具体的に説明する。 ※ (昨年度) 鎌倉・日記、28 行、7 問 (10)	標準 〈問題文〉 やや易 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。同志社大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	6問 (8)	7	1		3	1	4> <i>1</i>						
二	7問 (8)	7	1		2> <i>1</i>		1			2		3	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>長文が出題された際は、主語や事実関係などの細かな点を押さえつつ、意味段落を整理しながら読解するようにしよう。また、必要な要素が何かを考えて指定字数内にまとめる記述の練習も積んでいこう。</p> <p>〈古文〉</p> <p>問われる語句や文法は標準的なものがほとんどであるため、普段の学習における基本事項の確認をおろそかにしないこと。内容合致問題も必出のため、細部まで丁寧に把握することを意識しよう。</p>